

2007-2008 GROUP STUDY EXCHANGE PROGRAM

Rotary District 2640 GSE 団長報告

堺東南 RC 副会長&地区財団委員&
Rotary District2640GSE 団長

中川 優

1. Rotary District 1150(South Wales) 4 週間滞在の概況

2007年10月6日(土)平原祥彰ガバナー、坂本順一 GSE 委員長はじめ、多数のロータリー関係の方々の激励及び見送りを頂き、当日の夜10時過ぎにカーディフ空港に無事到着しました。空港では、Roy Blacker ガバナー、Bob Higgins 地区財団委員長、Keith Moger GSE 委員、来春日本に来られる GSE 団長の Steve Jenkins、ロータリアン及び家族の方々も多数、迎えに来られており感激いたしました。7日(日)は、イベントがなくホテルでくつろぐことができましたが、8日(月)からの1週間は、行事がびっしりで寝るのが深夜1~2時の毎日で、食事も3食ともに量が多くて消化剤を飲んで、健康に気を使う毎日でした。ロータリアンの方々は、友好的で、親切で、英語も少しゆっくり話していただけるので、団員一同、直ぐにウエールズに溶け込める様になりました。RC の例会には週2~3回のペースで参加し、簡単なスピーチ及びガバナー交換を行いました。時々質問も出たりで和やかな時間を送りました。また、週に1~2回のペースの ZONE 単位の集まりでは、我々の紹介をパワーポイントを用いて約20分、また、お茶会、書道実演、更にギター伴奏での日本の歌及びウエールズ国家を歌ったりして、7時過ぎに開始する合同例会が10時を過ぎるほどの大盛況でした。

毎回60~70人前後の方々が参加されていました。

13日(日)午前10時30分からの20分間は、我々の最大の行事です。前日には、RI1150地区大会の行われる Torquay (トーキー) にロータリアン家族と共に移動し、前夜祭を楽しみました。前夜際の会場では、我々の着物姿を見るや一緒に写真を撮りたい人で混雑し、中々会場に入れなほど人気がありました。P.P.R.I Bill Boyd 氏の講演も聞くことができ感激しました。ポリオ撲滅を強調されていました。

13日(日)午前10時30分前に司会者の手が上がり、我々は、壇上に向かいました。事前に Roy ガバナーより、時間トータルで20分以内にするを厳しく告げられており、超えると即座に打ち切ると脅かされていましたが、無事、事無く流暢に発表を終了しました。今回の地区大会参加者は約600人でした。

職業訓練では、Wales の大学、高校、小中学校などを何箇所か見学し、有益な議論を行いました。特に、日本との教育上の相違点、Wales 教育の特徴などを学びました。詳しくは団員からの報告を期待してください。主なイベントを項番3に示します。

Roy Blacker ガバナー、Bob Higgins 地区財団委員長、Keith Moger GSE 委員、及び、各 ZONE のシステムガバナー、ホームステイのロータリアン、及び、ロータリアンご婦人方の言葉では表せない程の親切さを一杯受けることができました。添付した写真の表情でご理解頂けると思います。今回の GSE 派遣は、有意義で大成功であったと自負しております。これからも是非、RI2640 地区の行事として続けていって頂きたいと思います。素晴らしい機会を与えて頂いたロータリアンの方々に感謝いたします。

2. 団員概況 (趣味)

団長	堺東南 RC (ゴルフ HC17)	和歌山大学システム工学部教授	中川 優
団員	和歌山西 RC 推薦 (ドラム演奏)	和歌山大学システム工学部助教	吉廣卓哉
	和歌山 RC 推薦 (ビリヤード)	海南高校英語教諭	堀亜希子
	羽衣 RC 推薦 (スキューバダイビング)	KTC 外語学院講師	竹谷佳保里
	堺東南 RC 推薦 (グライダー操縦)	特許事務所職員	教村香織

3. スケジュールと主なイベント

訪問地の Rotary District 1150(南ウエールズ地方)は、7 ZONE(7 ゾーン)から構成されており、我々の IM 1~8 組と類似したものです。IM には、2~3 人のガバナー補佐がいますが、当地では、ZONE 毎にシステムガバナーと呼ばれるガバナー補佐相当者が一名います。全員にお会いしましたが大変多忙だそうです。特に、ZONE1 システムガバナーの Tony Park さんは、ZONE1(和歌山県位の広さ)の RC を毎週、何度か訪問しているとのこと。ガソリン、軽油ともに、£ 1 (270 円/リッター) と高騰しておりました。

Rotary District 1150 滞在期間は、10月6日~11月2日でした。

主なイベントを次に示します。

(1) ZONE 3/4 合同例会での初めてのプレゼンテーション及び歌の披露を緊張して行った。10日、New House Country Hotel にて Cardiff East RC による開催。



(2) Keith Moger GSE 委員宅にて、日本食パーティー（チラシ寿司、肉じゃが、味噌汁）11日、ホームステイのホスト達との和やかな団欒。



(3) 地区大会での発表、パーティー状況。Torquayにて、12-14日。



(4) 大学、高校、小中学校などの訪問の様子。

主な訪問先：Cardiff University, Lampeter University, Swansea Institute, University of Wales, Ffynnonbedr Primary School, Llnrindod Wells High School, Carmarthen Primary&High Schools, UK Intellectual Property Office, Blaenau Gwent County Borough Council, Trinity College, Lampeter Primary School, House of Parliament London, National Library, Brace's Bakery, Museums, Castles.



Wales の地図



GSE の体験を振り返って

GSE 団員 吉廣 卓哉

一ヶ月間という長い間でしたが、終わってみると非常に短い期間だったと感じます。大勢の方に、本当に心から歓迎していただき、心温まる人と人との交流をすることができました。観光旅行では決してできない多くの経験を通じて、日本とウェールズの文化的な違いや、逆に人として共通な考え方や価値観を知りました。このように大変有意義な機会を与えてくださった皆様に心より感謝いたします。

さて、訪問を通じて驚いたことの一つに、彼らは日本文化についてとても興味を持ってくれたうえ、強く尊重してくれたことがありました。これは正直なところ、想像以上でした。現地では幾度かプレゼンテーションで日本の紹介をし、書道、お抹茶、折り紙、日本の歌の実演をしたのですが、毎回のように盛況で、例会終了の鐘が鳴るまで、日本の言葉や文化に対して質問が尽きることはありませんでした。ある方は慣れないのに夜遅くまで熱心に折鶴に取り組み、折り方を覚えてしまわれました。また別の方は「故郷」の歌詞の意味を知りたいと熱心に訊ねて来られました。とても全ては語り尽くせませんが、とにかく日本文化は非常に興味を引き、素晴らしいものだ大きく賞賛してくださったのです。

実はウェールズもまた、自国の文化を大切にしている国です。例えば、現地では多くの方が第一言語として英語を話すのですが、数年前から、ウェールズ語を絶やさないために、幼稚園からの英語とウェールズ語のバイリンガル教育を始めたそうです。また、St.Fagans という屋外ミュージアムでは、ウェールズの伝統的建物を郊外から移築して散歩がてら見て回れるようにして市民に無料開放しており、家族連れを含めて多くの方が来られて賑わっていました。そんな愛国の国だからこそ、彼らに全く馴染みのない日本文化もこれほど受け入れられたのかもしいないと思います。本当に貴重な異文化交流の機会でした。今後、この経験を教育や様々な場面に生かすよう努力する所存です。



St. Fagans の様子



折鶴を折った Mandy



日本の歌の披露



お茶会と書道のデモ

今回ウェールズへのGSE団員に選出していただいたことに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。1ヶ月に渡るGSEプログラムで特に心に残ったのは、ホームステイ、職業訪問、例会への参加の三つです。

ホームステイでは各家庭で家族の一員として温かく受け入れていただきました。話し好きな方ばかりで、飼っている猫の話から「近頃UKには東欧諸国からの移民が多いがそのことについてどう思うか」という話まで、いろんな話題で盛り上がりました。会話で一番役に立ったのが受験英語だったことには驚きでした。職業訪問では学校見学をさせていただき、先生方がとても厳しいことが印象的でした。例会では浴衣姿で茶道・書道の紹介をし、体験も楽しんでいただきました。



「これだけお世話になっている私たちが今お返しできることは」と考えると、「更衣時間・場所が10分でもトイレでもとにかく浴衣姿を披露」「夜中の3時までかかっても折鶴50羽・筆で書いた『愛』『平和』『夢』50枚用意」などで、とても喜んでいただけて非常にうれしかったです。ウェールズ国歌を歌ったときに、全員が起立・斉唱してくださった光景は忘れることができません。

学ぶことばかりの1ヶ月でした。それを私だけの経験に終わらせず生徒に伝えることで、彼らの学ぶ意欲を喚起するとともに学力向上の一助となるべく今まで以上に仕事に邁進する決意です。本当にありがとうございました。



W a l e s

教村 香織

一ヶ月にも及ぶ外国での生活は初めてでした。深くGSEの活動についても理解せぬまま、平常の忙しさにかまけて、ろくに準備もできずの出発となりました。間違いなく、今まで生きてきた中で、これほど濃密な一ヶ月はありません。観光名所だけでなく、学校や、自分の職業に関連する施設など、個人旅行では到底訪れることのできない場所に行かせていただきました。もちろん、そこでも新たな出会いがあり、日々世界が広がっていく時の貴重さに帰国して日常の世界に戻ると、改めて気付かされます。異文化に触れるというのは、ただ単に魅力的で楽しいだけではないと思います。吸収するだけでなく、自分の中から還元できる何かを見つけるのに苦勞したこの一ヶ月でした、新たな人々、新たな価値観を知ることで、自分自身を見つめなおし、今後の人生の歩みに対するヒントを今回の活動を通して得ることができたと思います。このような機会を与えていただけたことに、心より感謝いたします。



竹谷 佳保里

GSE 団員への選出,本当に感謝しております。ありがとうございました。

短すぎた 1 ヶ月,とにかく毎日が新鮮だった。

塾講師を職としているのだが,WALES にはその制度がない。そこで私の訪問先は保育園,幼稚園,小学校。時間をもらい折紙,茶道,浴衣を披露し日本文化を紹介。給食もご一緒させてもらった。抹茶は'mild'という 8 才児がいたけれど,大体は苦いという意見。味より過程を楽しんでいる様だった。持参した日本の祭や風景の写真を見て,いつか行きたいと話してくれた。

日本文化紹介といえばマイクを使う大会場でのプレゼンテーション。回を重ねる毎に余裕が出来,茶道,書道,日本民謡等を紹介し,参加してもらう事で日本文化を感じてもらえた。全く知らない隣の人が,会が終わる頃には hug シアドレス交換をしながら写真を撮る等,出会いの場だった。

最短 2~最長 4 日という短い期間で受入をしてくれた 5 つの温かなホストファミリー。ロンドン,舞台,ナショナルガーデン,大学,古城に同行したり,ボーリングをしたり。日本食を作っておもてなしをし,楽しい時間を共有できた。持参したレンジでチンの御飯は大活躍だった。

本当によく笑った,食べた,飲んだ。ホストとの別れ際にはよく泣いた。写真も 1000 枚以上撮影。一期一会というけれど,この旅全てが財産だ。それらを今後の職に活かし,生徒に伝えることで彼らの視野を広げ,未来への希望が膨らめばと思う。

本当にありがとうございました。

